



アイドリング脳科学研究センター
芸術文化学部 技藝院
コラボレーション



燈

幸 亮太

80×180cm 枕屏風

雲肌麻紙・天然石絵具
金属箔・墨

私はアイドリング脳という言葉の「アイドリング」という部分に着目した。その言葉から想起される私のイメージは、いつでも発進できるエンジンのように、静かな燈（ともしび）が常に燃え続けている状態である。

チューリップの花の形は火に似ていると感じる。チューリップを通して、脳が無意識化でも常に思考し続ける内なる状態を、消えることなく燃え続ける燈に見立てて表現した。

単なる花の絵ではなく、様々なイメージを喚起させるような表現にしたいと思いを入れて制作した。